

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：2020年2月18日

保護者アンケート回収率80.95% / 下記の保護者評価は回収分での占める割合

事業所名：放課後等デイサービスなえどこ

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	制度上は十分に確保されているが、利用児童に応じて活動スペースを相談している。時間によるが、隣接の施設を借りる事ができるよう連携をとっている。	はい:94.12% どちらともいえない:5.88% リフォームされて確保されていると思う。	「はい」の方が多いので、このまま取り組みを継続していく。
	2 職員の適切な配置	基準以上の職員数は確保できている。サービス提供時間中の欠員が出ないようにサービス提供時間中の送迎はドライバーで対応できるようにシフトを組んでいる。	はい:76.47% どちらともいえない:11.76% わからない:11.76% 職員がよく変わるのが気になる。	現状のスタイルを継続できるように努める。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	EVの使用や広い階段でゆとりをもって移動できるよう隣接の施設と連携をとっている。トイレ前にカーテンを設置し、重心児のトイレにも一部対応している。	はい:88.24% わからない:11.76% 歩行時の安全等の配慮はされていると思う。	現状のスタイルを継続できるように努める。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	毎日の取り組みとして、掃除と教材教具の消毒を実施している。月1回の取り組みとして、大掃除を実施している。	はい:94.12% どちらともいえない:5.88% 見学时、以来見ていないから分からないが、毎月配られる様子写真を見る限り心地よく過ごせる環境だと思う。	今後は安全点検も定期的実施するように検討をしていく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	業務分担を割り振り、各係で推し進めている。直接利用児童に関わる事については昨年度に引き続き行っている。	/	10月より業務リーダーを設けて、リーダー中心に業務を実施している。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	2017年度より継続課題。	/	次年度に実施できるように計画を進める。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	研修案内は回覧しているが、研修の機会がサービス提供時間と重なる事が多く、調整が可能な範囲での受講となっている。	/	法人グループ内で行う研修の活用と人員配置を工夫しながら勤務調整をし、可能な範囲で研修の受講を促進していく。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	保護者の記した個人票(毎年度更新)と送迎時や面談、電話等で得た直近の状況等から課題の整理表を作成し、直接処遇職員の意見を取り入れながら作成している。	【設問1(保護者アンケート設問1より)】 はい:94.12% どちらともいえない5.88% いつもしっかり作成していただいで助かる。	「はい」の方が多いので、このまま取り組みを継続していく。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	児童に応じて個別が主体だったり、集団が主体だったりするが、活動の中で目標に合うように内容や課題設定を工夫している。	【設問3(保護者アンケート設問2より)】 はい:94.12% どちらともいえない5.88% いつもしっかり作成していただいで助かる。	「はい」の方が多いので、このまま取り組みを継続していく。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	職員間で情報を共有しながら、個人票や日々の記録、課題の整理表を振り返り作成、検討をしている。新規の利用児童は、実態把握のため2~3か月後に更新している。	【設問3(保護者アンケート設問2より)】 はい:94.12% どちらともいえない5.88% いつもしっかり作成していただいで助かる。	「はい」の方が多いので、このまま取り組みを継続していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	個別経過記録にも目標を記載し、常に意識できるようにしている。療育リーダーを中心に目標に沿った活動、および記録になるように活動の前後で確認し合っている。	(保護者アンケート設問3より) はい:94.12% どちらともいえない5.88%	現状のスタイルを継続できるように努める。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	立案は、児発管および担当者が行っている。その後全体で確認し合っている。外出行事ができない状況になっている。		現状のスタイルで継続できるように努める。担当者を交替していき、職員が代わっても様々な立案ができるように調整をする。外出についてはゆとりを支援ができるように配置を整えた上で、実施を検討する。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	天候や季節に応じてAMとPMの活動を入れ替える等の工夫をしている。	(保護者アンケート設問4より) はい:88.24% わからない:11.76% ・障害に応じた活動等をよく考えていると思う。	昨年同様に活動プログラムが固定しないようにこの方針を継続していく。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	固定する事で分かりやすく、成長が期待できる事、逆にパターン化して飽きてしまう等、メリットとデメリットを考えている。様々なプログラムを用意し、1つ、2つ継続できるプログラムを一定期間固定して行っている。		「はい」の方が多いので、このまま取り組みを継続していく。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	全体打ち合わせの時間を設け、前日の振り返りと合わせて実施し、情報の共有を図っている。		今後は全体打ち合わせ後に、各グループでの打ち合わせの時間を確保していく。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	学校開校日は翌日の打ち合わせの際に、毎回振り返りを行い、情報の共有を図っている。学校休業日は当日に行っている。		短時間パート職員からも情報を得られるよう、業務日誌等を活用しながら全体打ち合わせで伝えられるようなシステムを検討していく。
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	目標に沿った記録を残せるように書式の見直しをし、8月から導入している。		新様式を有効的に活用し、毎月まとめをし、評価改善に繋がられるようにしていく。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	保護者への聞き取りは送迎時等顔を合わせた時に情報の共有や確認を行っている。児童については、日々の打ち合わせや記録から到達度を把握している。		設問10の記録用紙を活用して、毎月まとめたり、家庭訪問等の希望者には相談援助を実施したりする中で、より密に情報の共有を図っていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	各児童に担当職員を設けて、参画を始めている。		継続して取り組めるように努める。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	緊急時の対応を含めて、法人グループ内で必要な連携をとっている。 主治医訪問等を実施して情報を得る事が好ましいと思うが、同意が得られず、学校や保護者からの聞き取りで対応している。		学校との連携を継続し。日々の送迎時に学校との情報共有を図る。
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	医療的ケアやリハビリの希望者には主治医の指示書を基に対応している。 医療機関と協定を結び、連絡体制は取れているが、緊急時の状況に応じて職員間の周知ができていない。		連絡体制の周知をし、個人ファイルの活用と日々の意識付けを行う。 緊急時の訓練の計画を検討する。
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	児童発達支援、保育所を訪問して事前に情報の共有を行った。 入学後は学校への迎え時や保護者を通じて聞きながら情報を得ている。		保護者の意向を伺いながら、今後も要望があれば実施していく。また、児童の実態も見ながら必要に応じて調整をしていく。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	卒業児童の保護者には案内をし要望の確認をしている。昨年度は、保護者の要望はあったが、移行先の事業所から不要との事で実施できず。		今後も要望や児童の実態も見ながら必要に応じて調整をしていく。 保護者の意向を伺いながら、学校や関係機関との連携を深めるよう努める。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	研修案内は回覧しているが、研修の機会がサービス提供時間と重なる事が多く、調整が可能な範囲での受講となっている。		人員配置を工夫しながら勤務調整をし、可能な範囲で研修の受講を促進していく。
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	決まった施設との交流はない。	(保護者アンケート設問5より) はい:11.76% いいえ:17.65% わからない:64.71% (保護者アンケート設問5-2(事業所独自設問)より) はい:23.56% どちらともいえない:41.18% いいえ:23.53% わからない:5.88% 機会があれば交流をしても良いが、積極的にして欲しいとは思わない 学校で交流を持っているので特になくてよい。 色々な子と関わる事でいい刺激になると思う。	今後もニーズを調査しながら検討をする。 公園などの子ども達が来る場所に行き、一般の子どもと間接的に接したり、空間を共有したりする機会を設ける。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	昨年度までは法人グループ内の高齢者施設を訪問して交流の場を設定していたが、人事異動等により今年度はできていなかった。 2月より再開。		連携が途切れないように、継続的に実施ができるように計画を行う。
1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	支援の内容については、プログラム等の変更があれば案内を出している。 負担額については10月の消費税に伴う変更から各家庭を回り説明するようになった。	はい:88.24% どちらともいえない11.76%	今後も都度、説明をするように努める。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
保護者への説明責・連携支援	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	可能な限り、本人にも同席してもらい、児発管から説明して、本人の同意も得るようにしている。	はい: 94.12% わからない: 5.88%	現状のスタイルを継続できるように努める。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	これまでは、送迎時に様子や取り組み方法をなどの伝達はしていた。 10月より希望家庭については家庭訪問または事業所内相談支援を実施している。	はい: 64.71% どちらともいえない: 11.76% いいえ: 5.88% わからない: 17.65%	家庭訪問や事業所内相談支援の場を活用しながら、悩みや相談援助を継続して行う。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	連絡帳を活用したり送迎時に話をしたりする中で、日頃の情報共有をしている。	はい: 70.59% どちらともいえない: 17.65% いいえ: 5.88% わからない: 5.88%	家庭訪問や事業所内相談支援の場を活用しながら、より詳しく情報を共有できるように努める。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	定期的な面談等の設定はしていないが、悩み相談があった際には、誠意をもって対応している。	はい: 88.24% どちらともいえない: 5.88% わからない: 5.88%	家庭訪問や事業所内相談支援の場を活用しながら、より詳しく情報を共有できるように努める。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	実施していない。	(設問6より) はい: 5.88% いいえ: 52.94% わからない: 35.29% (設問6-2(事業所独自設問)より) はい: 17.65% どちらともいえない: 23.53% いいえ: 47.06% わからない: 5.88% 人とコミュニケーションを取るのが苦手なので、あまり輪に入りたいと思わない。	今後もニーズを調査しながら検討をする。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	対応体制については契約時に説明している。 苦情が出た場合には早期に解決するよう対応をしている。	はい: 41.18% どちらともいえない: 11.76% わからない: 47.06% 保護者から苦情があったのか分からない。 今のところ苦情はないので分からない。	今後も、苦情が出た場合には早期解決ができるように努める。また、全職員間で情報を共有し再発防止に努める。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	児童に対しては言葉の支援、サインの活用、イラストを入れる等配慮している。 保護者へは連絡帳を活用し、必要に応じてローマ字で表記するなど配慮している。	はい: 76.47% どちらともいえない: 11.76% いいえ: 5.88% わからない: 5.88%	現状のスタイルを継続できるように努める。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	通信の発行とホームページへのアップをしている。 配布時期やアップが遅れる事があったが、月1回のペースで発行している。	はい: 88.24% どちらともいえない: 11.76%	時期に遅れが出ないように継続していく。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	書庫、事業所、施設全体の施錠に加え、取り扱いについては書面で同意を得ている。	はい: 82.35% どちらともいえない: 5.88% わからない: 11.76%	今後も取り扱いには細心の注意を払いながら、現状のスタイルを継続できるように努める。
	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	昨年度までに作成は進めてきた。	はい: 94.12% どちらともいえない: 5.88%	現在の事業所の体制等に合う内容に更新中。 今年度中に完了させ周知していく。 緊急時に備えた訓練やシミュレーションの計画も検討していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	年3回、様々な想定で避難訓練習慣を確保できるように計画している。	はい:82.35% どちらともいえない:5.88% わからない:11.76%	災害を想定した訓練、緊急に備えた訓練を計画し、実施していけるように検討する。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	外部への研修の参加はできていない。 法人内でのeラーニングシステムの活用ができる。		法人内でのeラーニングシステムを活用して効率よく研修を進める。 外部の研修にも人員配置を工夫しながら勤務調整をし、可能な範囲で研修の受講を促進していく。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明し、了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	職員で検討し、必要な場合には保護者へ説明し、個別支援計画に記載し同意を得ている。また、更新の度に検討をしている。		今後も定期的に検討を行い、慎重に取り組んでいく。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	全児童に調査し、必要に応じて書類を提出してもらっている。		今後も新規利用児童については必ず調査し、在籍児童についても定期的に調査を行うようにする。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	作成できている。 事業所内で情報を共有し、対応策の検討を行っている。		発声した場合は、今後も早急に作成をし、情報の共有と再発防止策の検討を早期に実施するように努めていく。